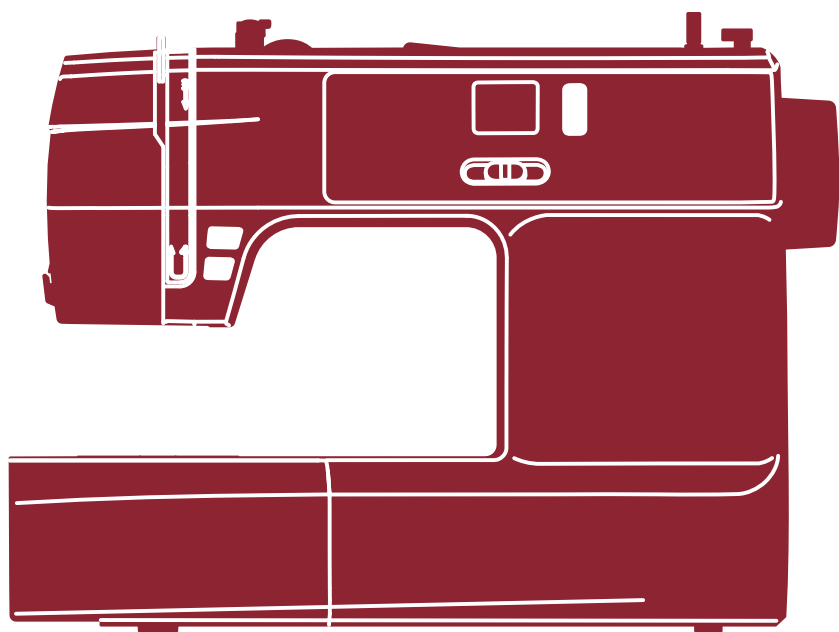




SINGER®

SN-e16 使用の手びき

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

はじめに

このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできるコンピュータミシンです。

このミシンの特徴をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

安全にご使用いただくために

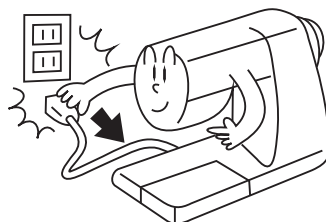
このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

⚠ 警告

このマークの表示は感電、火災の恐れがありますから、特にご注意ください。

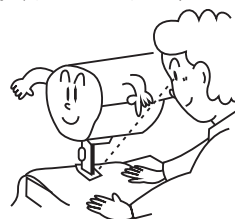
1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。
 - ・接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・雷が鳴りはじめたとき。



⚠ 注意

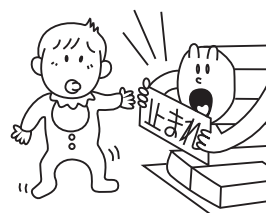
このマークの表示は感電、火災、けがなどの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の傷んだ針はご使用にならないでください。



安全にご使用いただくために

5. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
6. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
7. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
 - ・「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れをするとき。
 - ・原則として上糸、下糸をセットするとき。
8. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - ・正常に動作しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
9. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。



取扱説明動画

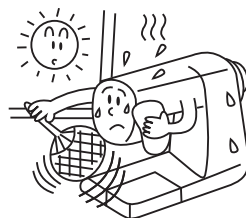
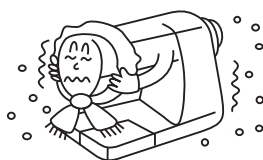
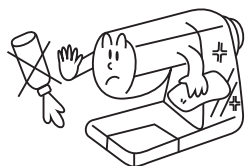


こちらの QR コードを読み込むと、取扱方法を動画で確認できます。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLmqUV6sly49rC8Kelt4cvHVw0sqFI_Axc

ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



仕様

型 式	SN-e16
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	70W
周 波 数	50Hz/60Hz
LED ライト	5V Max. 100mW
寸 法	幅：399 mm x 奥行：178 mm x 高さ：297 mm
重 量	約 5.6kg (本体のみ)

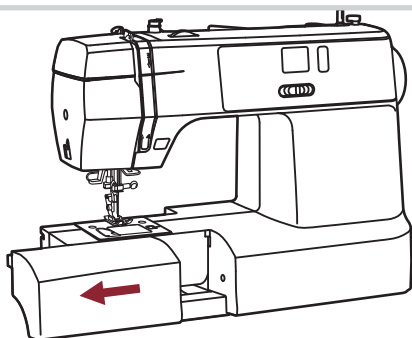
もくじ

はじめに	1
安全にご使用いただくために	1-2
取扱説明動画	2
ミシンの取り扱い	3
仕様	3
もくじ	4-5
補助テーブル・付属品	6
各部の名称とはたらき	7
左側面・前面 / 右側面・背面	7
各部の操作とはたらき	8
操作部	8-9
電源のつながりかた	10
電源を入れます / 電源を切ります	10
警告機能	11
警告音	11
警告表示	11
下糸をセットしましょう	12
糸コマをセットします	12
ボビンを取り出します	12-13
下糸を巻きます	13-14
ボビンのカマにセットします	15
上糸を通しましょう	16-18
上糸をかけます	16-17
糸通しの使い方	18
用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います	19
針を取り替えるには	20
布地に適した針と糸の選び方	21
押えを取り替えるには	22
押えの取り外し方 / 押えの取り付け方 / 押えホルダーの取り外し方 / 押えホルダーの 取り付け方	22
模様の選び方	23

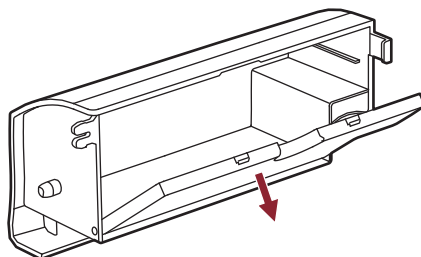
もくじ

ぬい模様一覧	24
糸調子の合わせ方	25
上糸調子ダイヤル / 正しく調節されている場合 / 上糸が強い場合 / 上糸が弱い場合	25
基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)	26-28
基本のぬい方	26
ぬい方向をかえるには / 返しぬい / 止めぬい	27
厚地のぬい始め / 段ぬい	28
伸縮ぬい	29
裁ち目かがり	30
ボタンホール	31-34
芯入りボタンホール	34
まつりぬい	35-36
ファスナー付け	37-38
つきあわせ	37
脇あき / スライダーをよけてぬうには	38
ミシンのお手入れ	39
LEDライトの交換	39
困ったときには	40-41
修理サービス要領	42

補助テーブル・付属品



補助テーブルは左方向へ引くと外れます。
※外すとフリーアームになります。



付属品箱は、手前方向に開けてください。
※こちらには、下記付属品の一部が入っています。

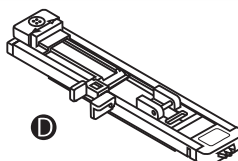
付属品 ※必ず下記付属品が入っていることを確認してください。



ジグザグ押え
(ミシン本体についています)



ファスナー押え



ボタンホール押え



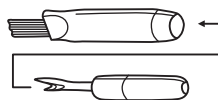
縁かがり押え



ボビン



三角ドライバー



ブラシ付きリッパー



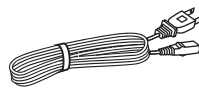
針パック



糸コマ押え(大)



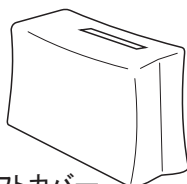
糸コマ押え(小)
※ 糸コマが細い時には、こちらの押えを使用して下さい。



電源コード



使用の手びき

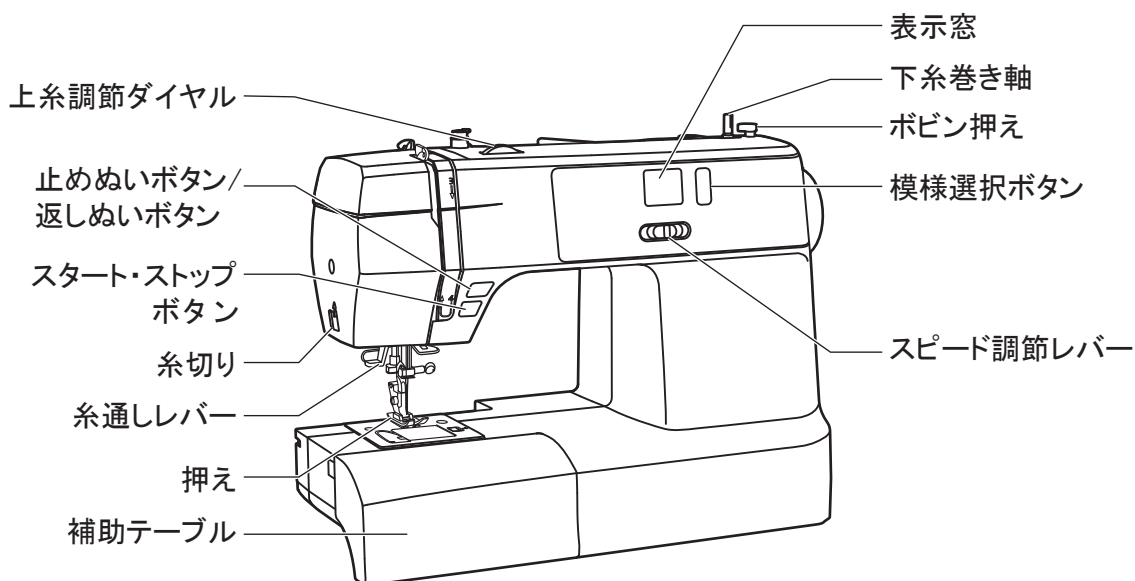


ソフトカバー

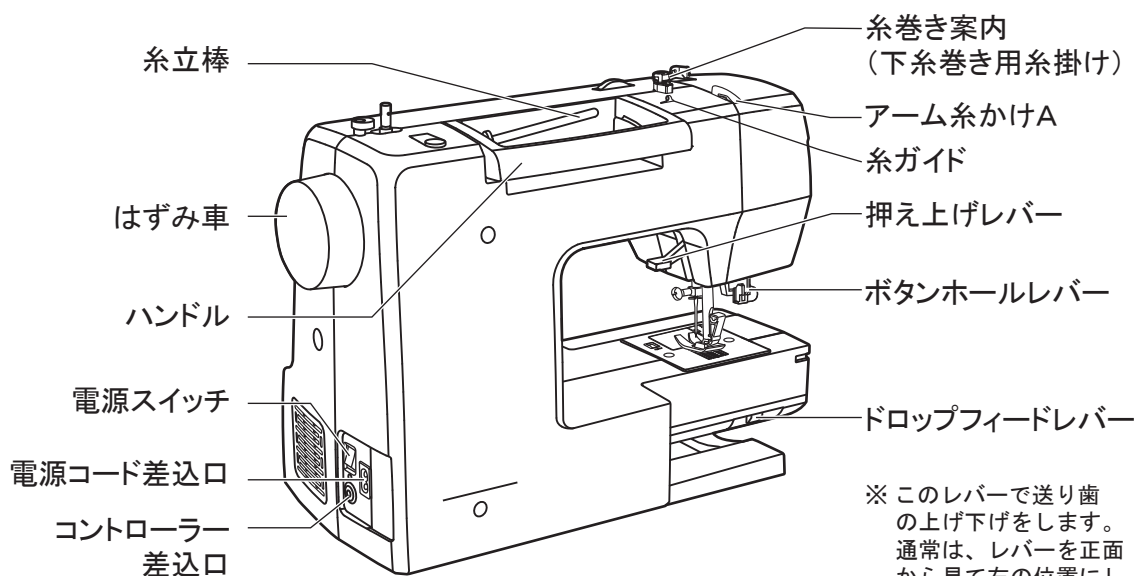
各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

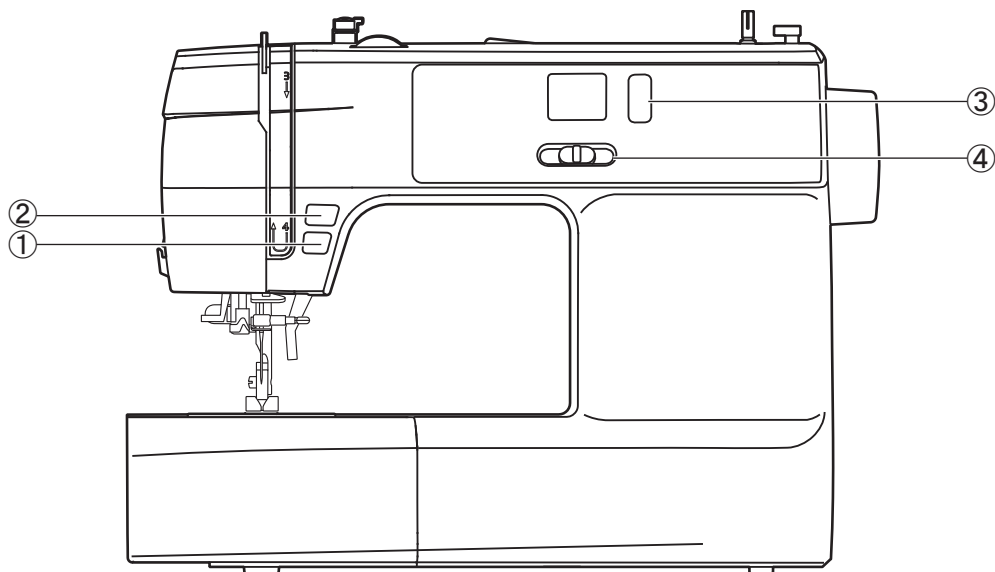
● 左側面・前面



● 右側面・背面



■ 各部の操作とはたらき



● **操作部** ミシンを動かす基本的な操作が手元でできます。

① スタート・ストップボタン

ミシンをスタートまたはストップします。ボタンを押すとゆっくり動き出し、スピード調節レバーでセットした速さで動き始めます。

もう一度押すと停止します。

※下糸巻き軸が右に寄っているときは、針は上下しないで下糸巻き軸だけ回ります。

② 返しぬいボタン / 止めぬいボタン

模様 01 ～ 08 を選択しているときに返しぬいボタンを押すと、押している間返しぬいをして、手を放すと止まります。

※裁縫中にボタンを押すと返しぬいになり、放すと前進ぬいになります。

模様番号 09 ～ 13 を選択しているときは、3 針止めぬいをして自動的に止まります。

③ 模様選択ボタン

模様選択ボタンを押すと、模様 01 ～ 16 を順に選択できます。

④ スピード調節レバー

ミシンのぬうスピードを設定します。お好みのスピードにセットしてください。

左側に寄せると遅くなり、右側に寄せると速くなります。

各部の操作とはたらき

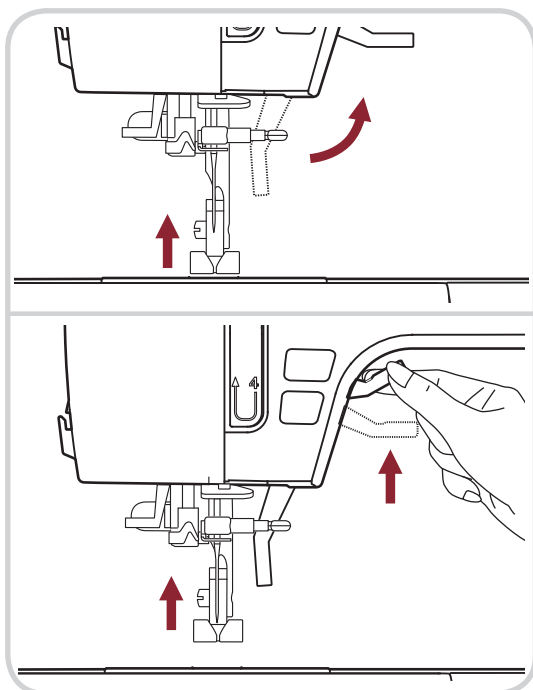
⑤ 押え上げレバー

布を押えたり、布を引き出すときに、押え上げレバーを使用して押えを図のように上げ下げします。

布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※この時レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。



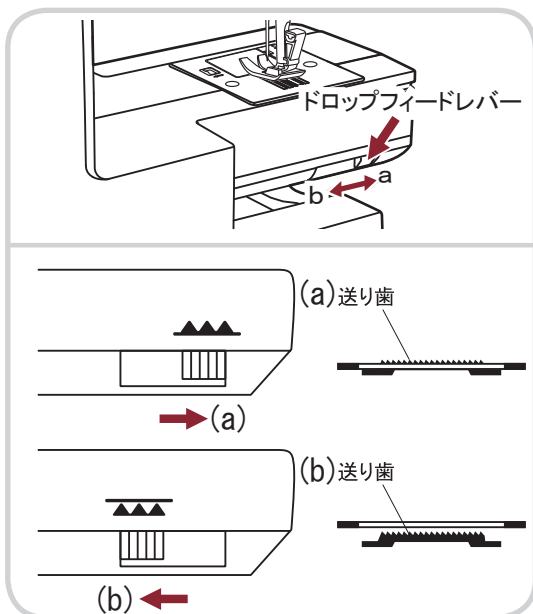
⑥ ドロップフィードレバー

(送り歯の上げ下げ)

本体の背面下部に送り歯を上げ下げできる、ドロップフィードレバーがあります。

針を上にした状態で、レバーをスライドして(b)位置にセットすると、送り歯が、針板上面より下に沈みます。

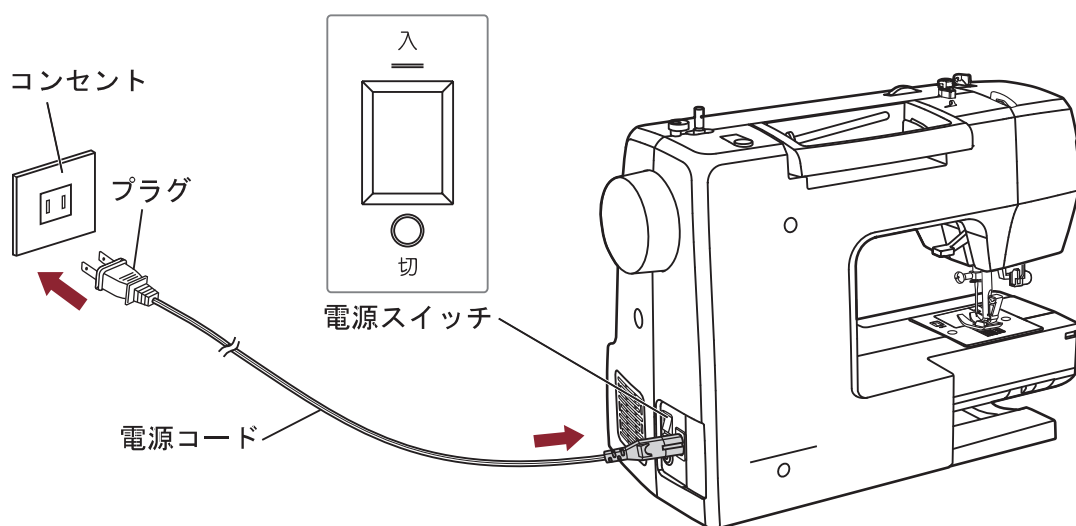
また、(a)位置にセットして、はずみ車を手前に回すと、送り歯が針板上面に出きます。



電源のつなぎかた

⚠ 警告 感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。

⚠ 注意 ケガ防止のために
○使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には電源スイッチを「○(切)」にしてください。
○ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



● 電源を入れます

- ・電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ・電源スイッチを「一 (入)」にします。
電源が入り、ライトと表示窓が点灯します。

● 電源を切ります

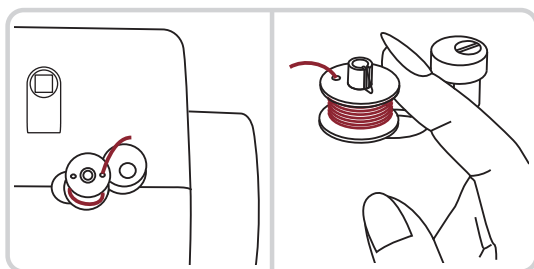
- ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。
- ・ミシンが止まっていることを確認します。
 - ・電源スイッチを「○ (切)」にします。電源が切れ、ライトと表示窓が消灯します。
 - ・電源プラグを持ってコンセントから抜きます。

警告機能

● 警告音

下糸巻き

下糸巻きが終わったまま、または下糸巻き軸が右側に押されたままで、スタート・ストップボタン以外のボタンを押すと、下糸巻き軸が左側に押されるまで、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。下糸巻きが終わったときは、必ず下糸巻き軸を左に戻しておいてください。



モーター過負荷保護

糸がらみ等で、ミシンに異常な負荷がかかり、モーターがロックした場合、モーターを保護するため、「ピピピッ」と警告音が鳴り、ミシンは自動的に止まります。40、41ページの「困ったときは」を参照し、原因に対処しても改善されない場合、お買い求めの販売店へご相談ください。

⚠ 注意 ケガ防止のために

ぬっている途中で、糸がカマにからむなどしてミシンがロックすると、警告音がして自動的に止まります。必ず電源を切ってください。

トラブルを取り除いたあと、電源を入れて再びお使いください。

電子音

- ・正しく機能しているとき、「ピッ」と1回鳴ります。
- ・不正な操作をしたとき「ピピピッ」と警告音が鳴ります。
- ・ミシンがトラブルを起こし、ぬえないとき「ピピピッ」と警告音が鳴ります。

● 警告表示

下糸巻き

下糸巻き軸を右に押すと、表示窓に「下糸を巻いています」という【SP】が表示されます。

※この表示が出ているときは、針は上下しないで下糸巻き軸だけが回ります。

モーター過負荷保護

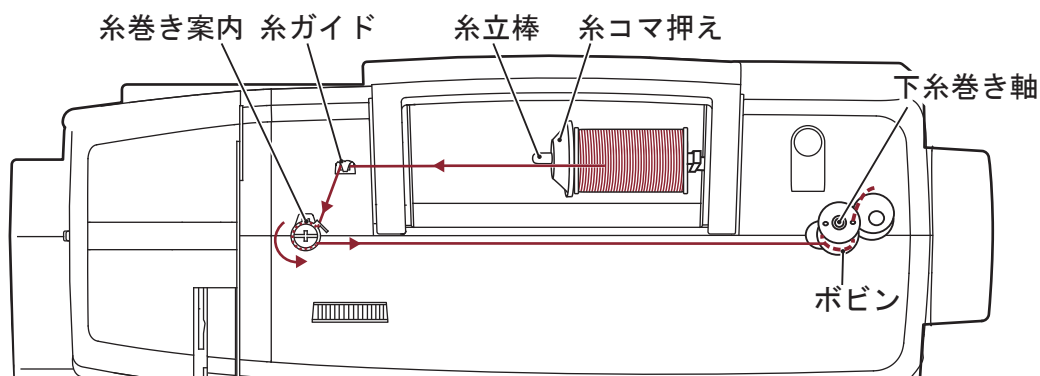
糸がらみ等で、ミシンに異常な負荷がかかり、モーターがロックした場合、モーターを保護するため、ミシンが止まり、表示窓に【EL】が表示されます。

下糸をセットしましょう

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意 ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン(高さ11.5mm プラスチック製)を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

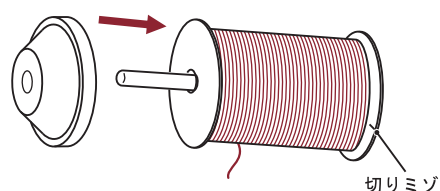


● 糸コマをセットします

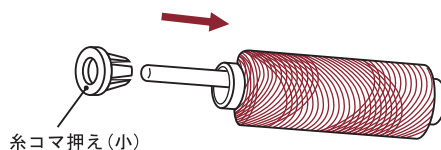
糸立棒を軽く起こし、下側から手前に糸が出る向きにして下糸用の糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。

糸コマが細い時には、糸コマ押え(小)をご使用ください。

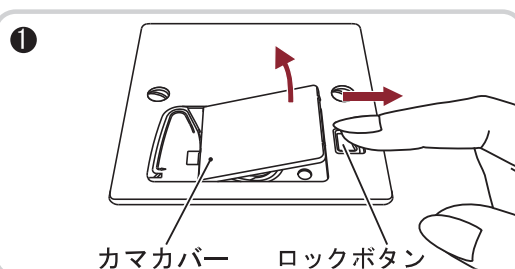


※糸巻きに切りミゾがあるときは、その部分を右側にしてください。



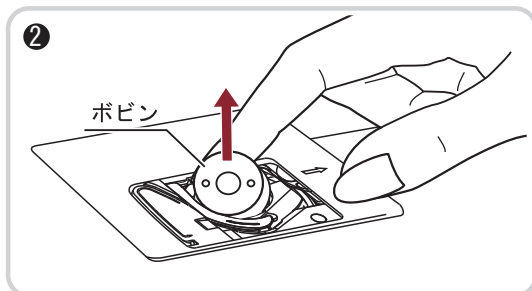
● ボビンを取り出します

- ① カマカバーの右側にあるロックボタンを右に動かします。



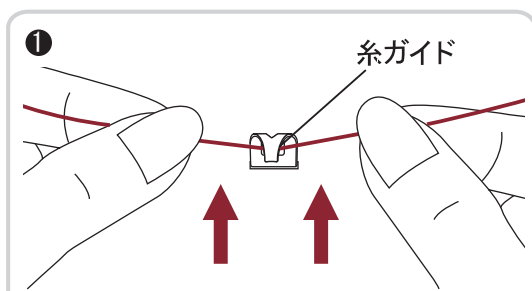
下糸をセットしましょう

- ② カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

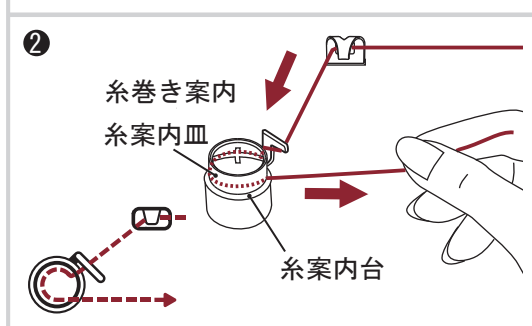


● 下糸を巻きます

- ① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸をかけます。

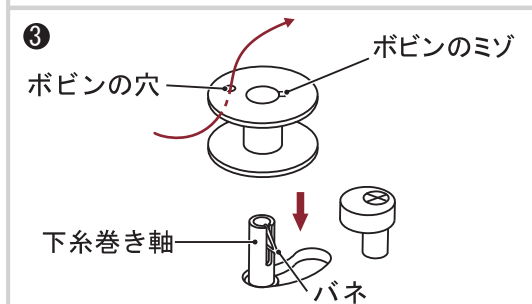


- ② 糸ガイドから糸が抜けずに糸を押えながら、糸巻き案内の突起に糸をかけ、糸案内皿と糸案内台の間にしっかり糸が入る様に、左回りにぎゅっと糸を巻きつけ、糸を右に引いていきます。



※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。

- ③ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。



- ④ ボビンをセットした状態で、下糸巻き軸を右側に押します。

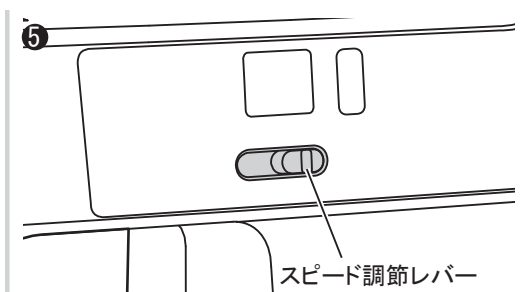
※下糸巻き軸を右側に押すと、表示窓に「下糸を巻いています」という【SP】の表示がされます。

下糸巻き軸を左側に戻すと表示は選択されている模様番号になります。

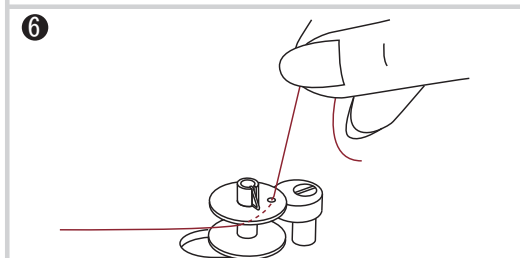


■ 下糸をセットしましょう

- ⑤ スピード調節レバーで糸を巻くスピードをはやいに設定します。

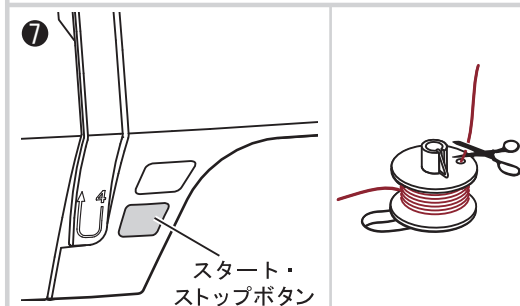


- ⑥ ボビンに通した糸はしを持ったまま、スタート・ストップボタンを押して巻き始めます。

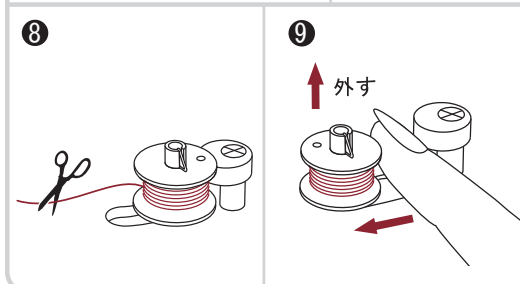


- ⑦ いったん止めてボビンの上の余分な糸を切ります。

もう一度スタートします。



- ⑧ 巻き終わると、ボビンの回転がゆるやかになります。
スタート・ストップボタンを押してミシンを止め、巻き終わりの糸を切ります。

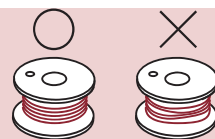


- ⑨ 下糸巻き軸を左側に戻し、ボビンを取り外します。

下糸をセットしましょう

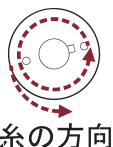
⚠ 注意

下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。



● ボビンをカマにセットします

- ① カマカバーを外し、糸のはしを出してカマの中にボビンが左回りになるよう入れます。

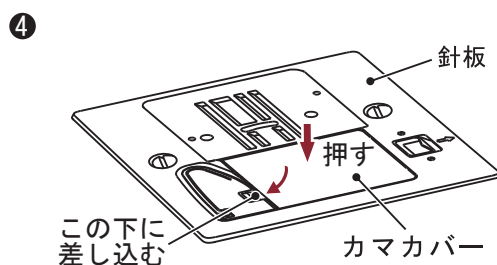
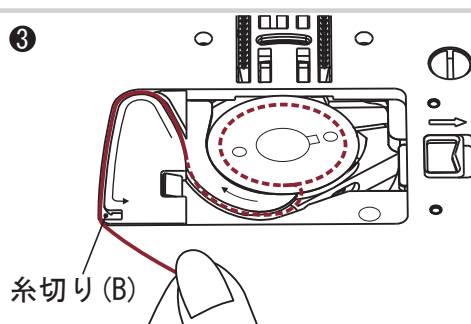
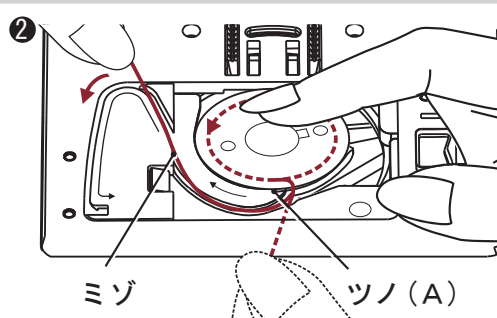
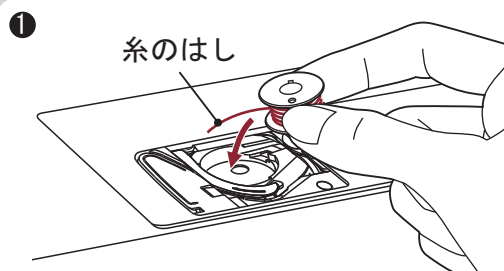


- ② ボビンが動かないように指で押さえながら、糸を引きだし、手前のツノ(A)の下に引っかけます。
その後、糸を左にギュッと引きながら、ミゾに沿って、上から下に糸を通します。

- ③ (B)の糸切りの位置で糸を右に引き、糸を切ります。

- ④ カマカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、カバーを閉じます。

下糸を引き上げる必要はありません。



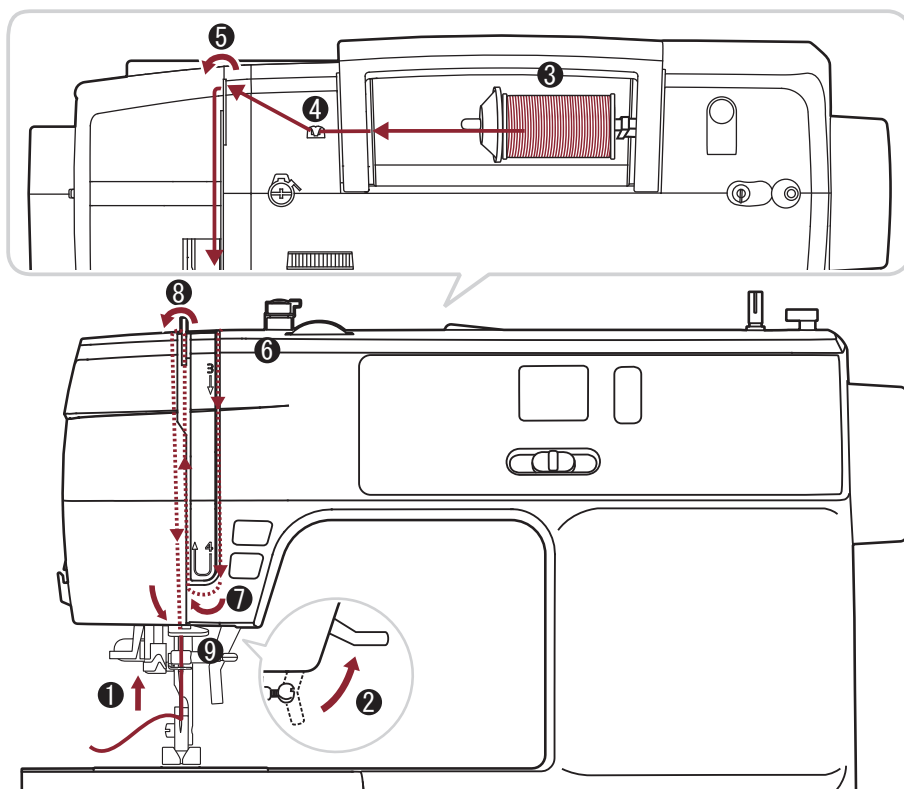
⚠ 注意 ケガ防止のために

ミシンを作動する際は必ずカマカバーを閉めてください。

上糸を通しましょう

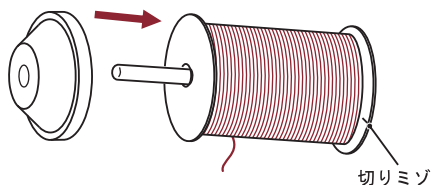
！ 注意 ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

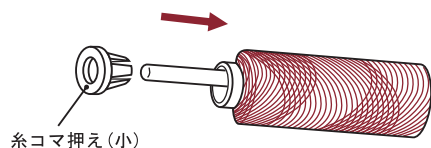


● 上糸をかけます

- ① 電源スイッチを入れます。
返しぬいボタン / 止めぬいボタンを1回押し、針を上げます。
電源スイッチを切ります。
- ② 押え上げレバーを上へ上げます。
必ず押え上げレバーを上げてください。レバーを下げたまま上糸のセットを行うと、布地の裏やカマに沢山糸が出てからむことがあります。
- ③ 糸立棒を軽く起こし、糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。
※ 小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付けます。糸コマから少し離してセットします。
※ 糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。



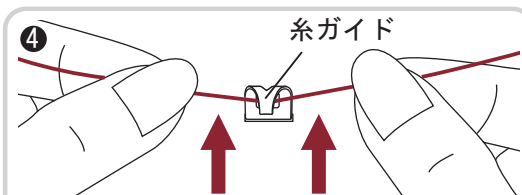
※糸巻きに切りミゾがあるときは、その部分を右側にしてください。



上糸を通しましょう

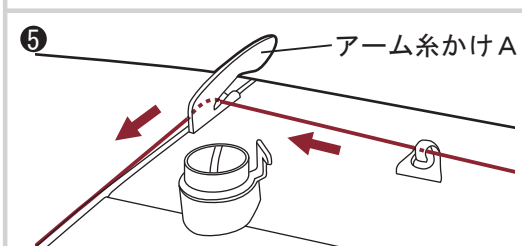
必ず前ページ(①-③)の準備を済ませてから、上糸かけを行ってください。

- ④ 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から後ろに糸を通します。



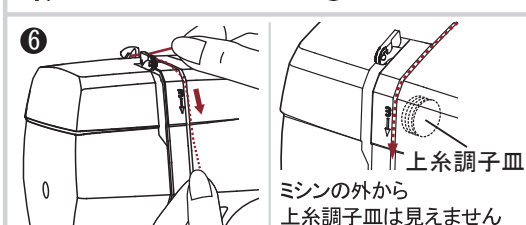
- ⑤ 通した糸をさらに引き出し、アーム糸かけAの後ろから糸をかけます。

※下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。

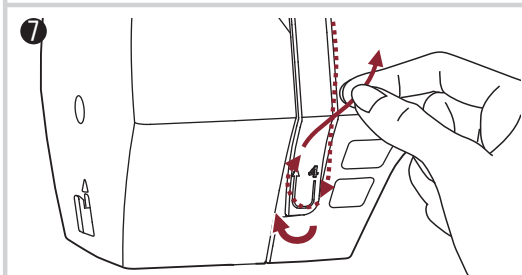


- ⑥ 糸を両手で持ち、ピンと張った状態で、ミゾの中にある、上糸調子皿に上から下に糸をキュッと通した後、矢印にそって、手前に糸を引きおろします。

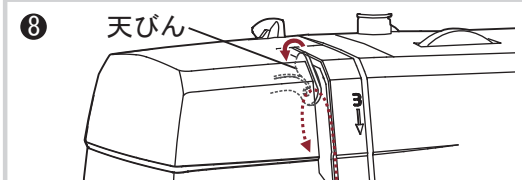
※糸調子皿はミシンの外からは見えません。



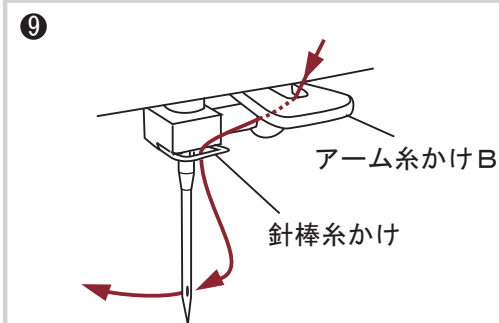
- ⑦ 矢印にそって、右から左に糸を引き上げます。



- ⑧ 天びんの右側から後ろへ糸を回し左手前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



- ⑨ 糸をアーム糸かけBに右奥からかけたら、続いて針棒糸かけにも右奥から糸をかけます。
その後、針穴に前から後ろに糸を通します。



針穴に糸を通す糸通しレバーの使い方は、次のページをご参照ください。

上糸を通しましょう

⚠ 注意 ケガ防止のために

○糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。

○ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。糸通しレバーがこわれるだけでなく、針が折れ、ケガの原因となります。

● 糸通しの使い方

- ① 押えを下げます。
- ② 電源スイッチを入れ、返しぬい / 止めぬいボタンで針を上にあげます。

電源スイッチを切ります。

※糸通しが使用できる針は、11番、14番、16番です。

※糸通しレバーは返しぬい / 止めぬいボタンを押して必ず針が上で停止している状態で使用してください。

- ③ 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しのガイドにかけて、右に引いていきます。
- ④ レバーをいっぱいに下げます。

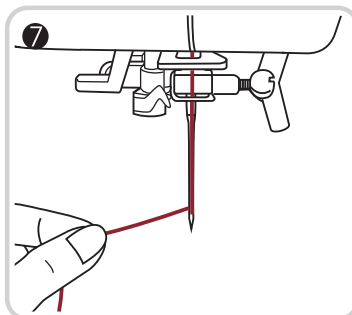
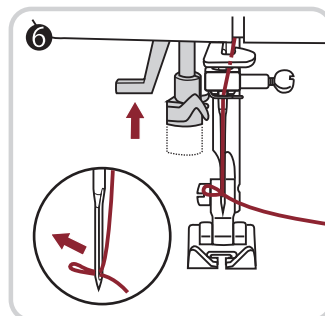
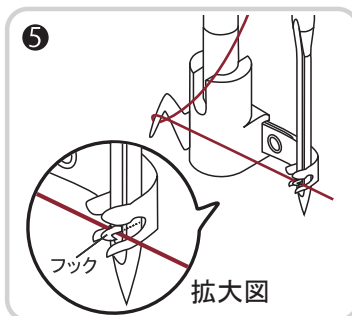
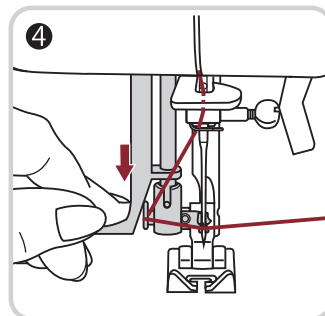
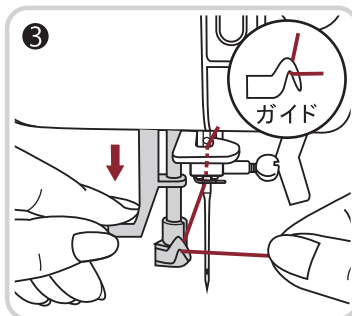
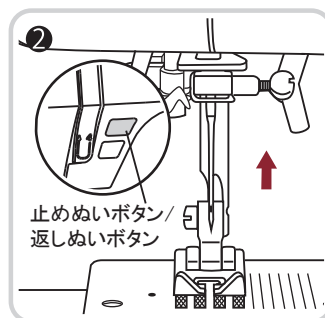
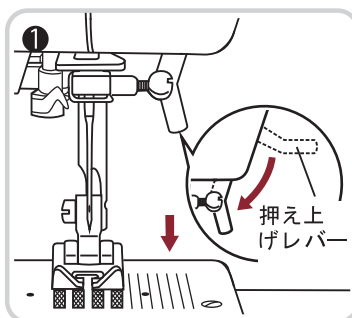
糸通しレバーが回転し、フックが針穴に通ります。

※針が正しい位置にないと、レバーが回転しません。必ず②番を行ってください。針穴にフックが通れないまま無理に押し下げると、フックが曲がり針穴に通らなくなることがあります。

- ⑤ フックの下に糸をかけます。
- ⑥ 糸を軽く持ってレバーを放します。糸が輪になって、針穴に通ります。フックは元の位置に戻ります。

- ⑦ 糸はしを針穴から10cmくらい引き出しておきます。

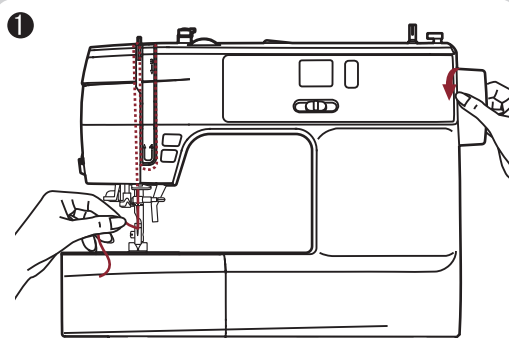
これで準備完了です。



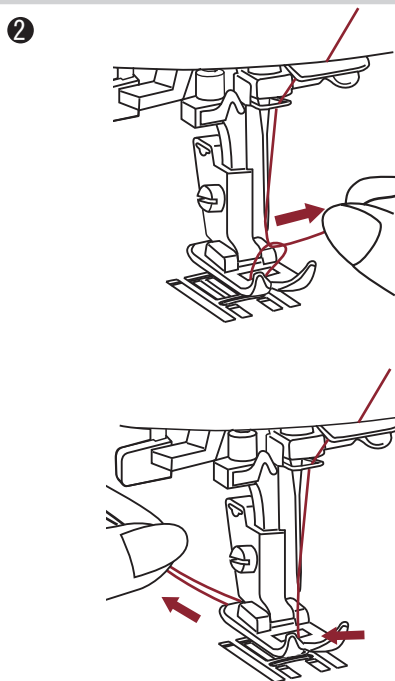
■ 用途によって、下糸を引き上げ使用する際は次のように行います

- このミシンは、下糸を引き上げなくてもぬうことができますが、下糸を長くにとってぬい始めたいときは、下糸を引き上げておきます。※下糸セット時の最後の糸切りはしないでください。

- ① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、その後上げます。



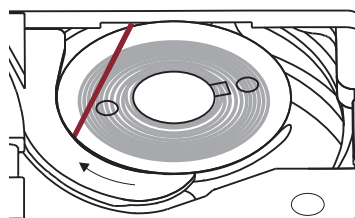
- ② 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に 10cm くらい出しておきます。



< 正しくセットできたかを確認する方法 >

下糸を引き上げた後、ボビンを上から見ると左上に 1 本糸がかかった状態となります。かかっていないと糸調子が悪く、きれいにぬえません。

もう一度下糸をセットし直してください。



針を取り替えるには

針は、布地や糸に合わせて選びます。21 ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照して下さい。

⚠ 注意 ケガ防止のために

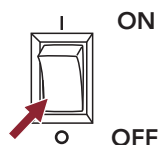
○曲がった針や先のつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。

○必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

○針は必ず家庭用ミシン針 (HAX1) をご使用ください。

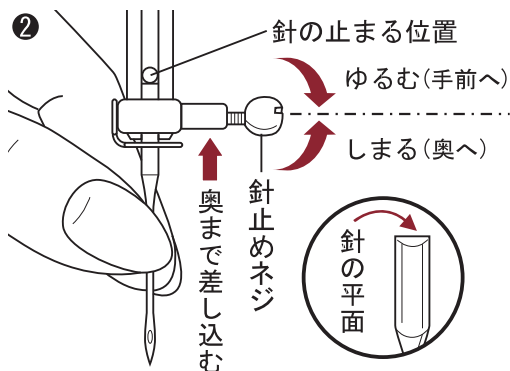
- ① 電源を切ります。押え上げレバーを下に下げます。

①

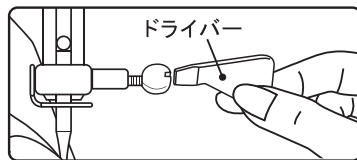


- ② 針止めネジを三角ドライバーを使って手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

②

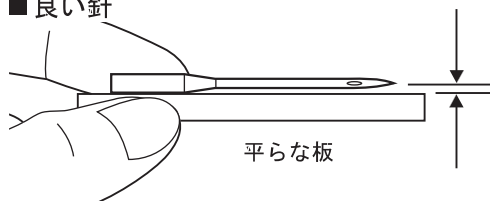


新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(押え棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで奥へ回し締めます。

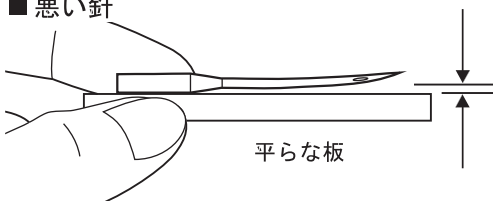


取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

■ 良い針



■ 悪い針



■ 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80-100 絹 60-80	9 ~ 11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50-80 絹 50	11 ~ 14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40-50 絹 50	14 ~ 16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) ニット用糸 50	11 ~ 14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

※ 綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

なるべく新しい糸をお使いください。(目安として製造より 2 年)

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸(キルト糸)などは使用しないでください。

＜オススメ＞

スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

■ 押えを取り替えるには

⚠ 注意 ケガ防止のために

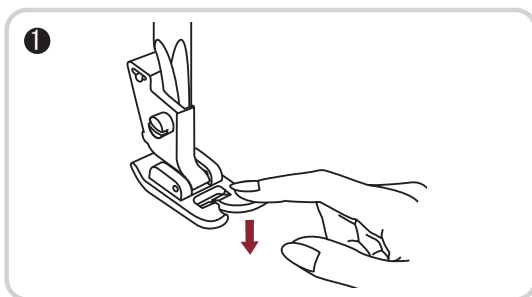
○ 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲がったりして危険です。

○ 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

● 押えの取り外し方

- ① 押え上げレバーを上げて、押えを上げます。

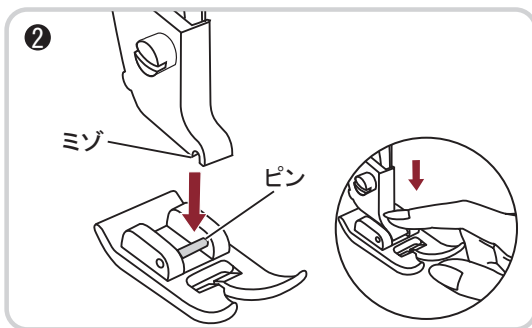
押えを下に押すと押えは外れます。



● 押えの取り付け方

- ② 押えのピンが、押えホルダーのミゾの真下にくるようにして、押え上げレバーを下げます。

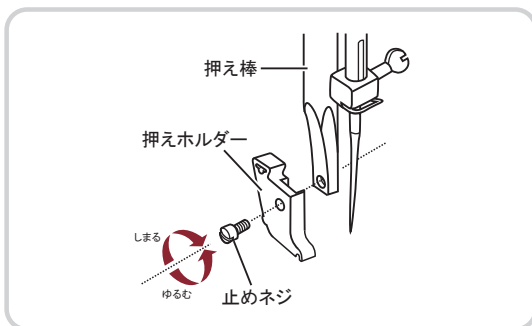
ピンがミゾにうまく取り付けられないときは、押えホルダーの上から軽く押してください。



● 押えホルダーの取り外し方

押え上げレバーを上げ、押えを上げます。

押えを取り外し、三角ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。



● 押えホルダーの取り付け方

押えホルダーのネジ穴と押え棒のネジ穴の高さを合わせ、止めネジを取り付けます。

止めネジは三角ドライバーで手前に回して締め付けます。

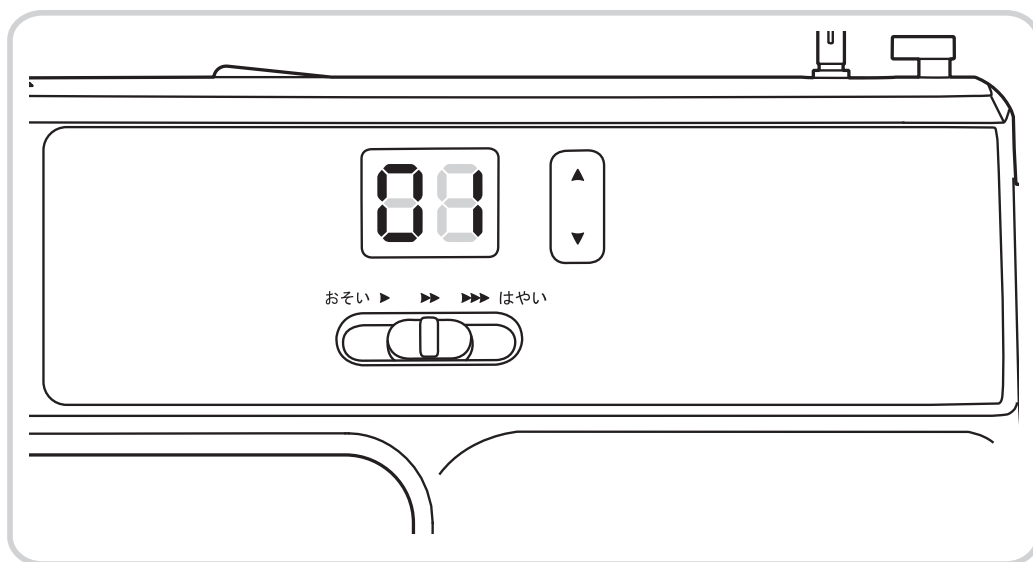
※ 押えの交換は、押えホルダーは取り付けたまま行います。取り外す必要はありません。

模様を選び方

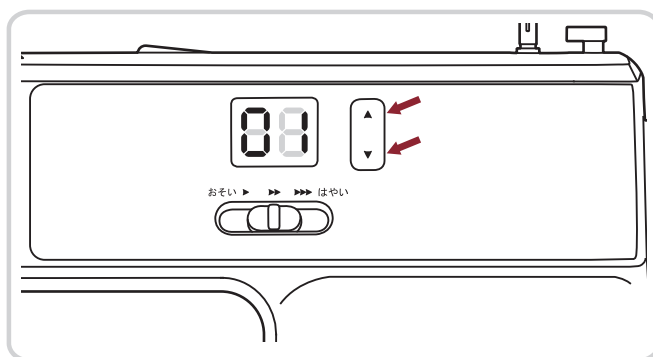
電源を入れると、自動的に直線(中基線)が選ばれます。

模様選択ボタンを押すと、模様 1 ～ 16 を順に選択できます。

▲を押すと数字が大きくなり、▼を押すと数字が小さくなります。



- ① ぬいたい模様を決めます。
- ② 選んだ模様に合った押えを準備します。
押えを取り替えます。
- ③ 電源を入れます。
- ④ 模様選択ボタンを押します。



ぬい模様一覧

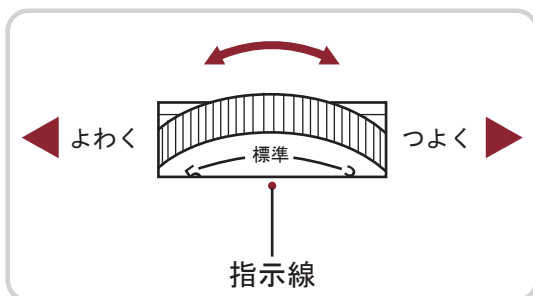
模様			ふり幅 (変更単位 : mm)	ぬい目の長さ (変更単位 : mm)	押え番号	返しぬい	止めぬい
			自動	自動			
実用模様	01		3.5	2.5	C	*	
	02		3.5	3.0	C	*	
	03		1.0	2.5	C	*	
	04		1.0	2.5	C	*	
	05		2.0	2.5	C	*	
	06		2.5	0.5	C	*	
	07		3.5	1.5	C	*	
	08		5.0	2.0	C	*	
	09		5.0	1.0	C		*
	10		5.0	1.5	C		*
	11		5.0	2.5	E		*
	12		3.5	2.0	C		*
	13		3.5	1.5	C		*
ボタンホール	14		5.0	0.4	D		
	15		5.0	0.4	D		
	16		5.0	0.4	D		

* 使用可

糸調子の合わせ方

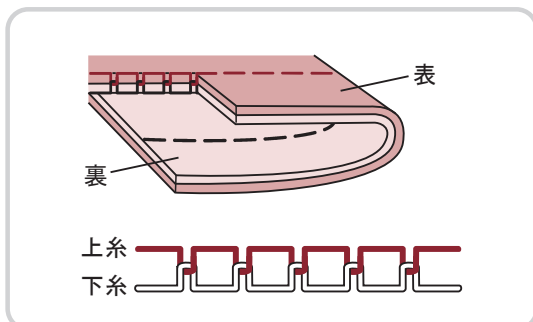
● 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「標準」に合わせると普通に使用される糸 (#50-60) でぬった場合に、糸調子が合うように設定されています。



● 正しく調節されている場合

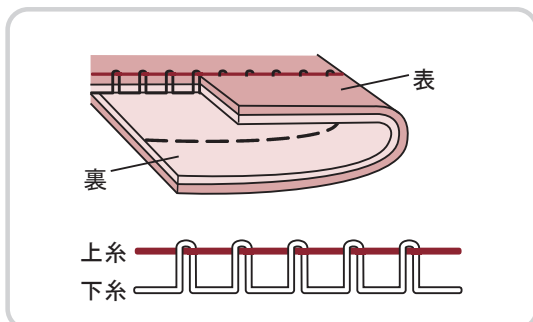
右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せをするときは、上糸調節ダイヤルを調節して糸調子を合わせてください。



● 上糸が強い場合

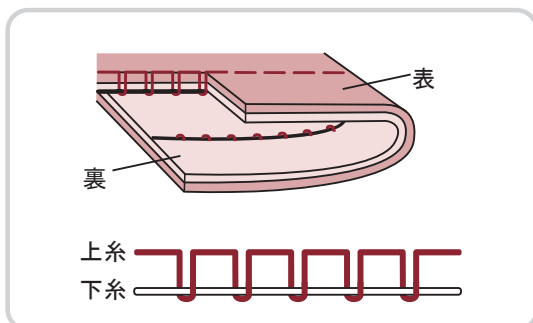
布の表の糸が 1 本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルを左の方向(よわく)に回し、ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。



● 上糸が弱い場合

布の裏の糸が 1 本になっているときは、上糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルを右の方向(つよく)に回し、ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。

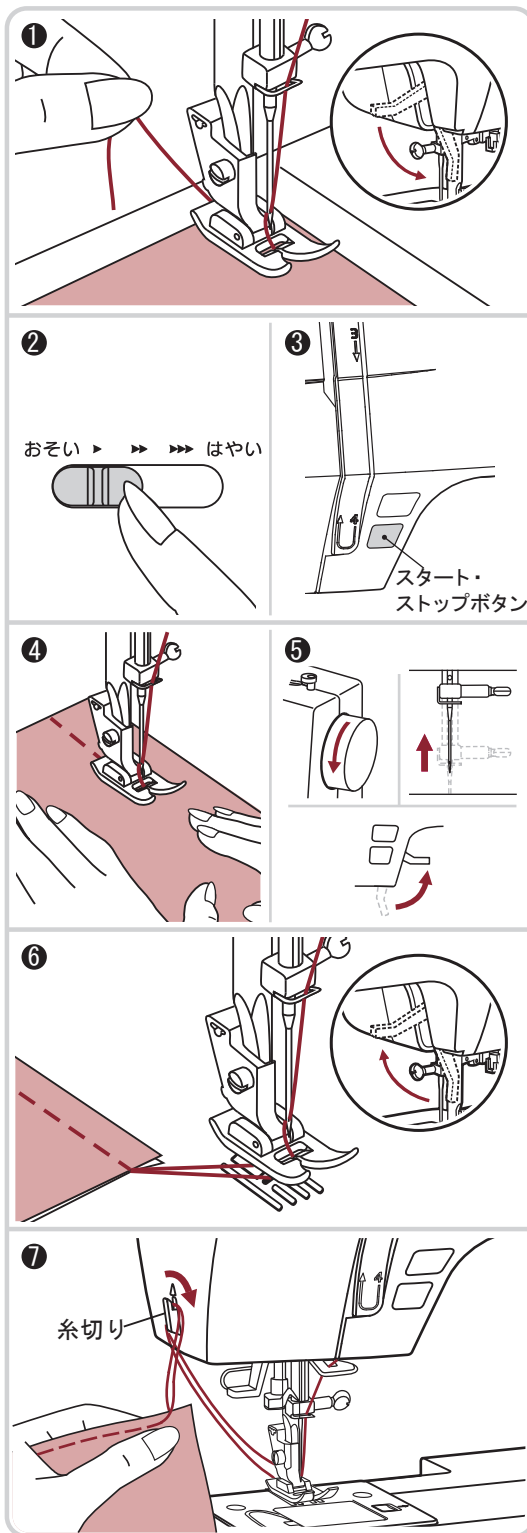


上糸調節ダイヤルの数字を変更しても糸調子が合わない場合には、ボビンのセットの方法が正しくない場合や、上糸をかける際に、押え上げレバーを上げずに糸かけをしてしまったなど、上下糸が正しくセットされていない可能性があります。12～18 ページをご覧ください、再度、上下糸を正しくセットし直してください。

基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

● 基本のぬい方

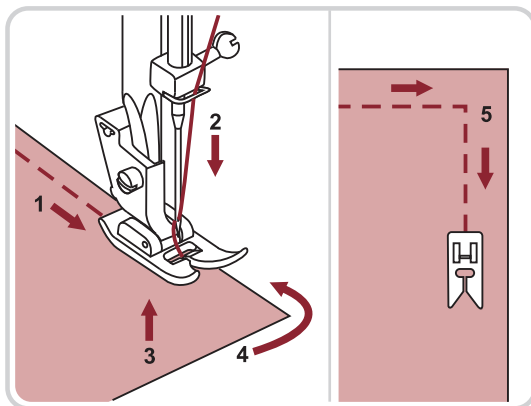
- ① 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置ではずみ車を手前に回し、針を刺してから押えを下ろします。
- ② ぬい速度を設定します。
- ③ スタート・ストップボタンを押してスタートします。
- ④ 布地に軽く手をそえます。ぬっている間は布地を無理に引っ張らないようにします。
- ⑤ スタート・ストップを押してストップします。はずみ車を手前に回してください。押え上げレバーを上げます。
- ⑥ 押えを上げ、布地を後ろへ引いて取り出します。
- ⑦ 糸切りに糸をかけて手前に引くと、糸が切れます。



基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

● ぬい方向をかえるには

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針に刺したまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。



● 返しぬい / 止めぬい

ぬい始めやぬい終わりに、3～5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほつれず、丈夫になります。

ミシンが停止状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、手を放すとミシンは停止します。

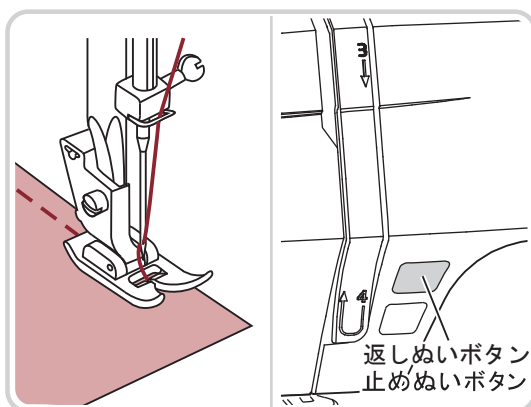
ぬい始めからほつれ止めを行う場合、布はしから3～5針分手前に針を刺します。

※裁縫中にボタンを押している間返しぬいになり、放すと前進ぬいになります。

ぬい終わりに、自動で止めぬいをすることができます。※ 8ページ参照

- ① 模様を選びます。
- ② ぬい始めの位置で止めぬいボタンを押すと3針止めぬいをして止まります。
- ③ スタート・ストップボタンを押します。
- ④ 模様 09 ～ 13 のとき、ぬい終わりの位置で止めぬいボタンを押すと、3針止めぬいをして自動的に止まります。

※ ボタンホール 14 ～ 16 の模様では、使用できません。

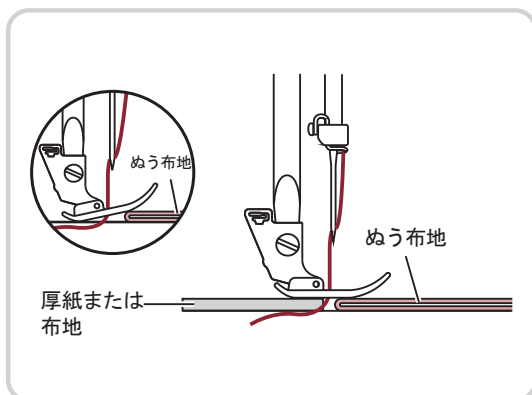


基本ぬい(直線ぬいとジグザグぬい)

● 厚地のぬい始め

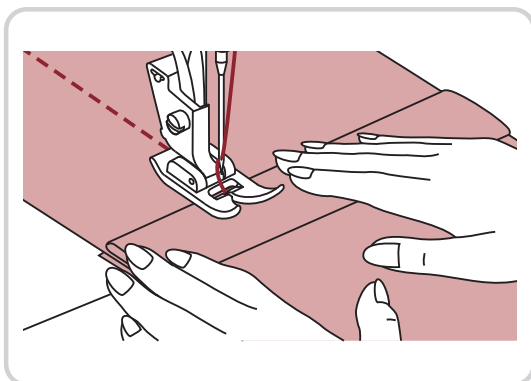
厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。

このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

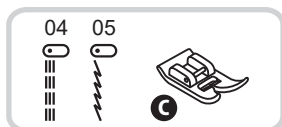


● 段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



伸縮ぬい



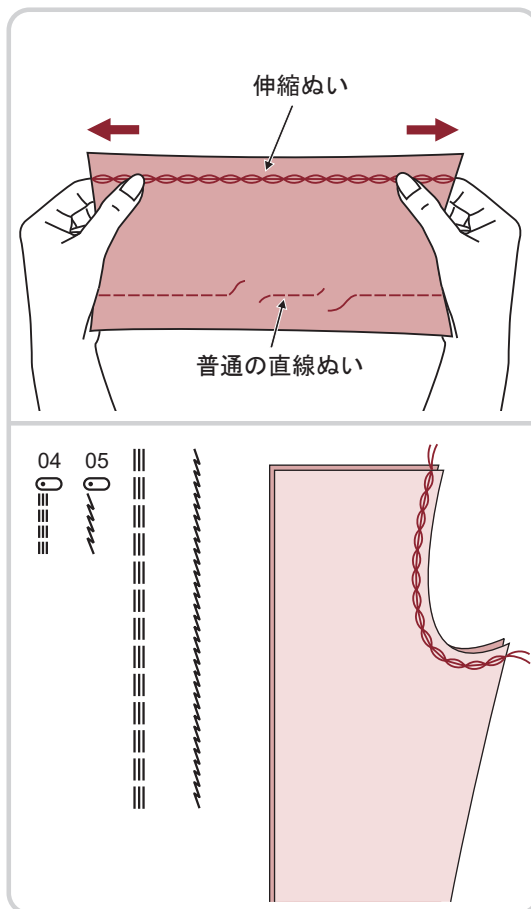
このぬい目は伸縮性があるので、ニットやジャージなどの伸縮性のある布地のぬいに適しています。

○ 伸縮強化ぬい 04

直線の三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

○ 伸縮直線ぬい 05

伸び縮みがきき、布地を伸ばしても糸が切れません。ぬい方は、直線ぬいと同じです。



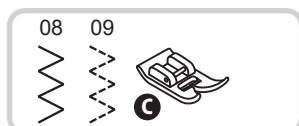
裁ち目かがり

裁断した布はしがほつれないように縁かがりをします。

⚠ 注意 ケガ防止のために

○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

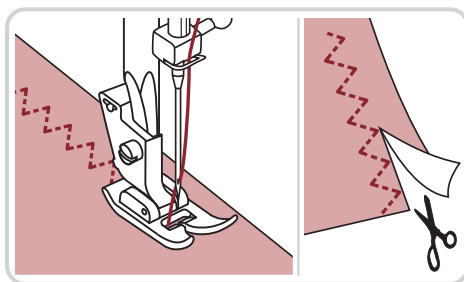
● ジグザグ押えを使用するとき



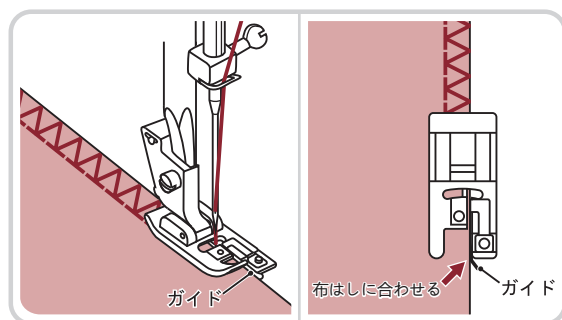
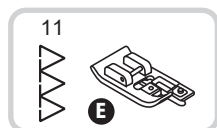
ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

* 伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には、市販の接着芯をあてるときれいにぬえます。

裁断した布はしがほつれないように、縁かがりとしてぬう場合は、ぬい代を少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。



● 縁かがり押えを使用するとき

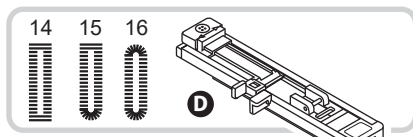


布はしをガイドに合わせてぬいます。

※ ぬう前に必ず、押えの金具に針が当たらないことを確認してください。

ボタンホール

ボタンホールは次の3つの模様から選びます。



14 薄地、普通地（シャツ）などに。

15 薄地、普通地のシャツ・ブラウスなど横向きのボタンホールを作るときに。

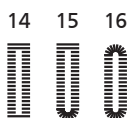
16 厚地の横向きのボタンホールを作るときに。

⚠ 注意 ケガ防止のために

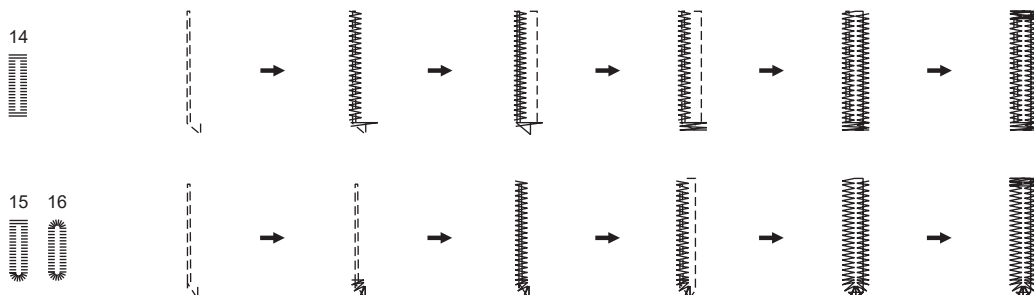
押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

「ボタンの直径＋厚み」3cm までのボタンホールができます。

ぬうときは、必ずぬうものと同じ布地（残り布）で試しぬいを行ってからぬってください。

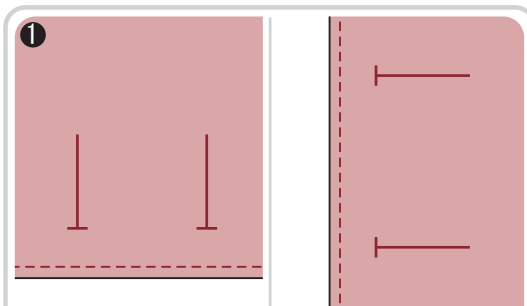


ボタンホールは次の順序でぬわれます。

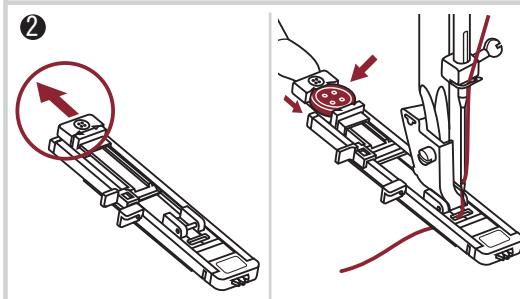


ボタンホール

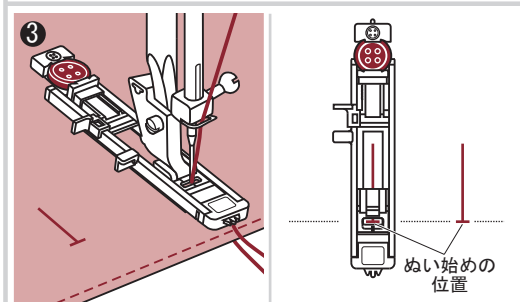
- ① ボタンホールをする位置にチャコペンなどで印をつけます。



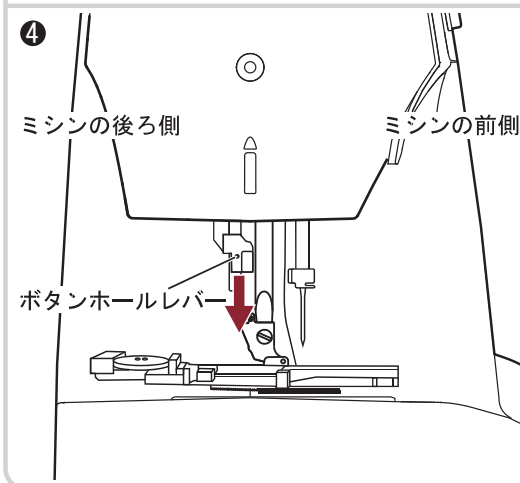
- ② ボタンホール押え(D)の後ろを引き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。通常ついている押えを取り外し、ボタンホール押えを取り付けます。



- ③ 布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。
糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

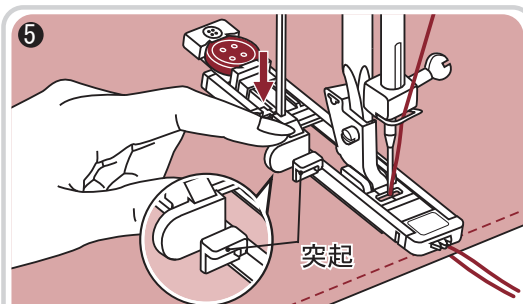


- ④ ミシンの後ろ側にある、ボタンホールレバーを下に引き、完全に止まるまで下げます。

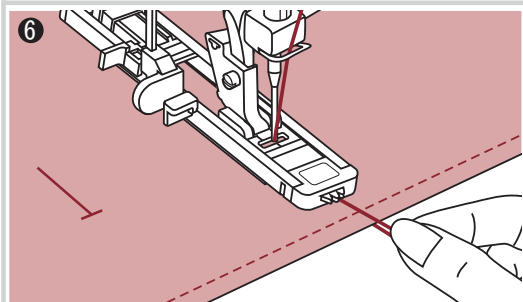


ボタンホール

- ⑤ ボタンホールのレバーは、必ず、ボタンホール押えの左側にある突起部の後ろ側に降るように、セットしてください。

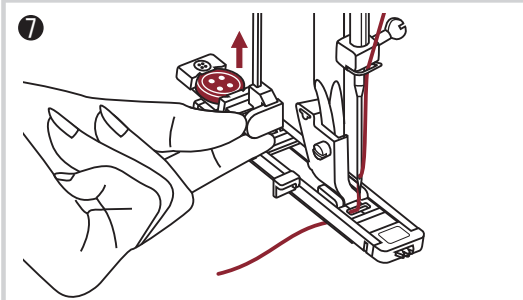


- ⑥ 上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。
※糸は引っ張らないようにしてください。
ぬい終わると、自動的に止めぬいをして止まります。

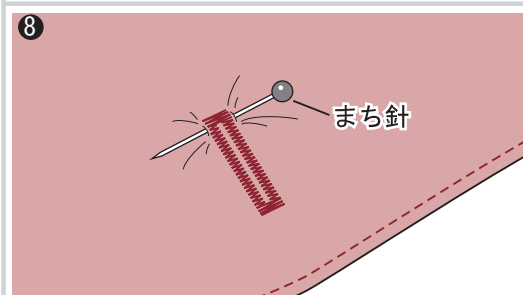


- ⑦ 押えを上げて生地を取り出し、糸を切ります。

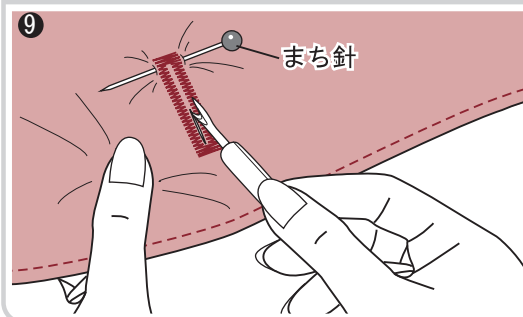
ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。



- ⑧ ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針を刺します。
※まち針は付属品ではありません。



- ⑨ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。



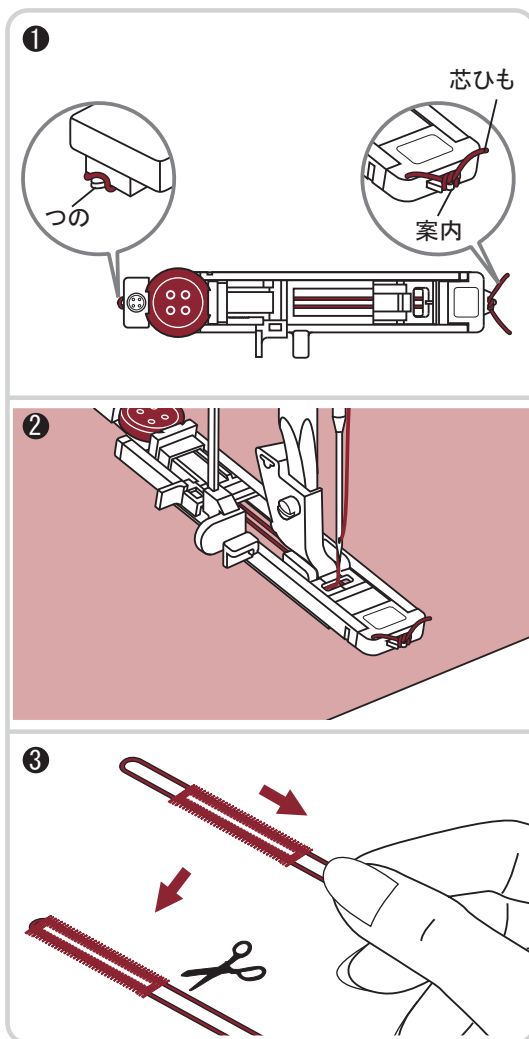
⚠ 注意 ケガ防止のために
リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

ボタンホール

● 芯入りボタンホール

伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

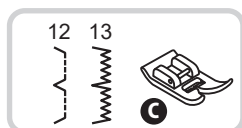
- ① 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるつのにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみます。
- ② 通常のボタンホールと同じようにぬいます。
- ③ 左側の芯ひもを引いて、たるみを無くし余分な糸を切ります。



まつりぬい

布地の表面に目立たないぬい目をつくるぬい方です。

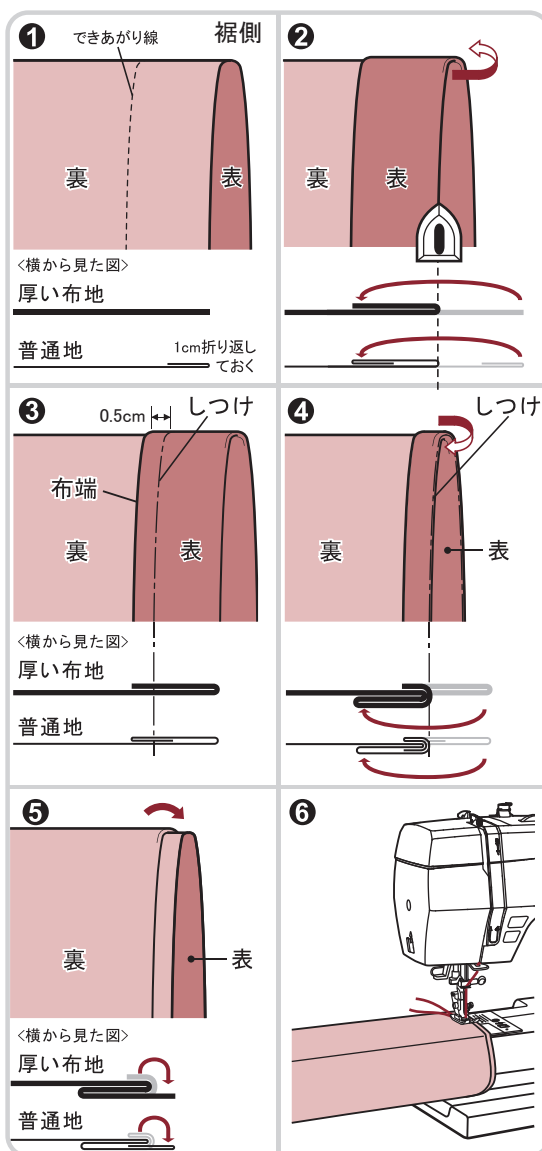
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さまの服のたけ直しなどにもぜひご利用ください。



⚠ 注意 ケガ防止のために

押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- ① 裾上げするスカートやズボンを裏返します。
- ② できあがり線で布を折り返し、アイロンをかけます。
- ③ 布はしから約 0.5cm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。
- ④ しつけをしたところから、内側へ折り込みます。
- ⑤ 布はしを開きます。
- ⑥ ミシンをフリーアームにして、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認します。(6ページ参照)



まつりぬい

- ⑦ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。
その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。

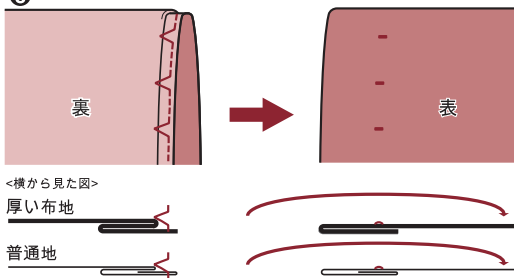
⑦

左側がわずかに折山にかかるように合わせてぬいます。

裏

- ⑧ しつけをほどき、布地を表に返します。

⑧



ファスナー付け

ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。

01



⚠ 注意 ケガ防止のために

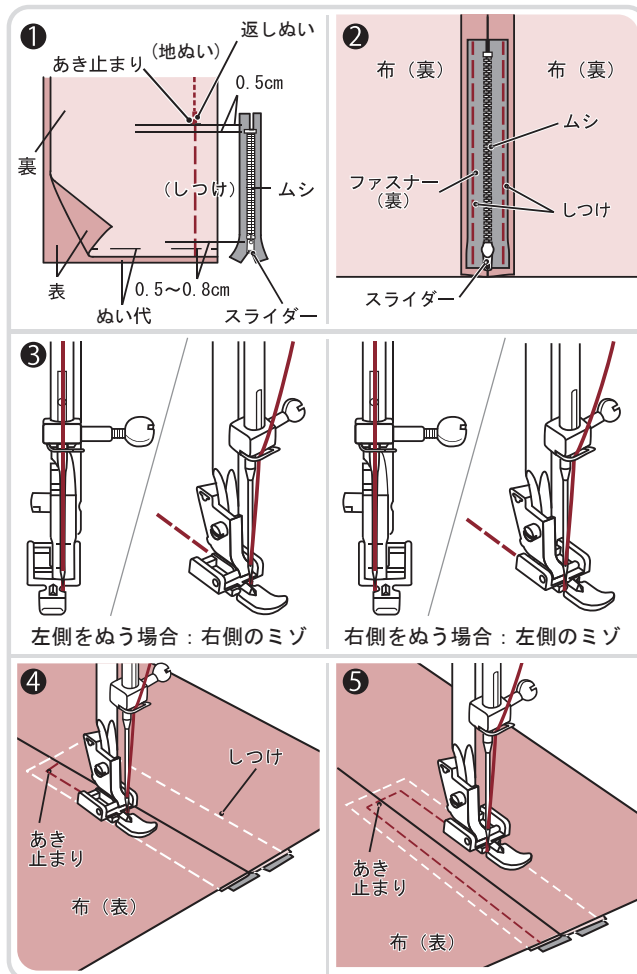
○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

○ファスナー押えは、必ず直線 01 だけにお使いください。ほかの模様を使用すると、針が押えに当たって折れ危険です。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

● つきあわせ

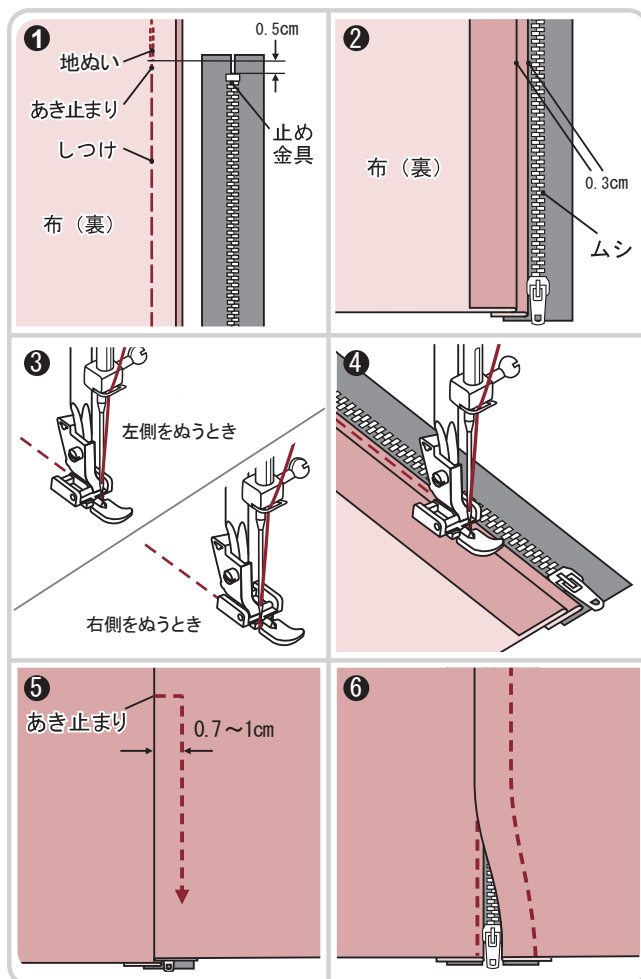
- ① 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。しつけはほどきやすいよう粗めでぬいます。
- ③ ファスナー押え(Ⅰ)を取り付けます。ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。布の合わせ目から 0.7 ~ 1cm 離してぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。
右側も同様に、0.7 ~ 1cm 離してぬいます。



ファスナー付け

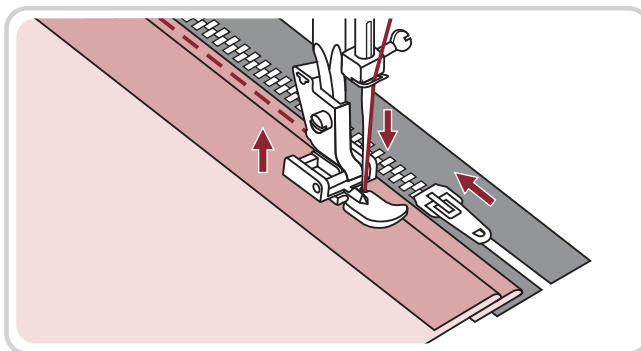
● 脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分はしつけをします。
- ② ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3 cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押え(I)を取り付けます。
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側は布の折り目から0.7 ~ 1cm 離してぬいます。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。



● スライダーをよけてぬうには

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側に下します。
4. 押えを下げてぬい続けます。

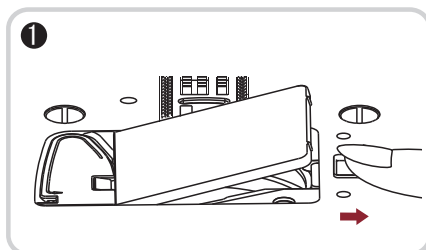


ミシンのお手入れ

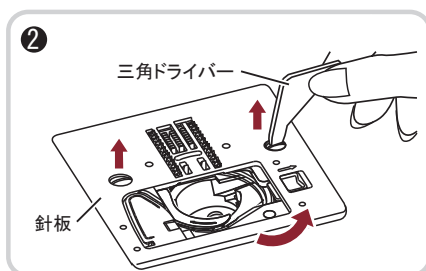
⚠ 注意 ケガ防止のために
お手入れの際は必ず電源プラグを抜いてください。

● 内カムと送り歯の掃除

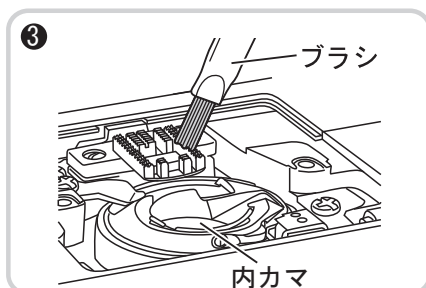
① カマカバーを取り外して、ボビンを取り出します。



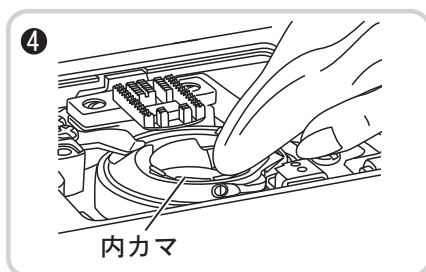
② 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属の三角ドライバーで外し、針板を取り外します。



③ ブラシで送り歯に付いた糸くずやほこりを掃除します。



④ 内カムをブラシで掃除し、布などで軽く拭きます。掃除が終わったら、針板を取り付け、止めネジ2ヶ所を三角ドライバーでしっかりと止め、カマカバーを取り付けてください。



LEDライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常は交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

※ 糸調子が合わない原因は、糸かけやボビンのセットが誤っていることがほとんどです。
一旦、上下糸を取り外し、正しくセットし直してください。(12 ~ 18 ページ参照)

不調の状態	原因	処置	参照 ページ
ミシンが動かない	電源が入っていないとき。	電源を入れます。	10
	スタート・ストップボタンを押していないとき。	スタート・ストップボタンを押します。	8
	上下糸のかけ方が間違っているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12 ~ 18
	下糸巻き軸が右へ押されているとき。	左へ戻します。	14
	カマに糸やゴミがたまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	39
布地が縮む	上下糸のかけ方が間違っていたり、余分な箇所糸が引っかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12 ~ 18
	上糸の調子が強すぎる時。	適正な強さに調節します。	25
	布地に対してぬい目の長さが長すぎる時。	布地に合った模様を選択します。	24
ぬい目に輪ができる	上下糸の糸調子が合っていないとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12 ~ 18
針が折れる	細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
	曲がった針を使用したとき。	新しい針に取り替えます。	20
	布地を無理に引っ張ったとき。	手は布地にそえるだけにします。	26
	針が正しく取り付けられていないとき。	針を正しく取り付けます。	20
	模様に対して正しい押えが取り付けられていないとき。	模様に合った押えを取り付けます。	24
布を送らない	ぬい目の長さが布地に合っていない。	布地に合った模様を選択します。	24
ぬい目がとぶ	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	20
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21

困ったときには

不調の状態	原因	処置	参照ページ
ぬい目が飛ぶ	上下糸のかけ方が間違っているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12～18
	針が正しく取り付けられていないとき。	正しくつけ直します。	20
	針板の下に糸くずがからまっているとき。	糸やゴミを取りのぞきます。	39
	針と布や糸の素材が合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
上糸が切れる	針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	新しい針に取り替えます。	20
	針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
	上糸の調子が強すぎる時。	上下糸を正しくかけ直します。	12～18
	針の取り付け方が間違っているとき。	正しく付け直します。	20
	上下糸のかけ方が間違っているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12～18
	糸が必要以外のところからみついているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12～18
	ご使用の糸が古いとき。	新しい糸に替えます。	21
下糸が切れる	ボビンのセット方法が間違っているとき。	正しくセットし直します。	15
	カマの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取り除き、内カマと送り歯の掃除をします。	39
ボビンに糸が巻けない	ボビンが下糸巻き軸に完全に差し込まれていないとき。	完全に差し込みます。	13
布の裏で糸がからまる	上下糸が正しくかかっているとき。	上下糸を正しくかけ直します。	12～18

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

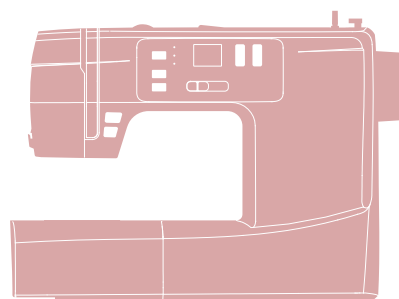
● 修理用部品の保存と供給

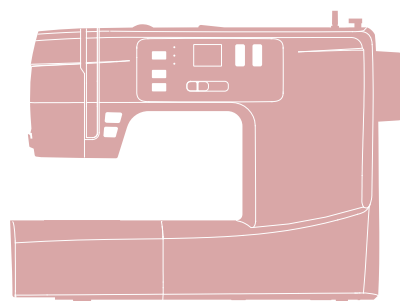
動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
4. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

170年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。





株式会社 ハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL.03-3837-1865

（本社）〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515